

視 察 日 時	令和6年7月8日（月） 13時30分 ～ 16時30分
視 察 先	山口県下関市（説明：こども未来部 子育て政策課）
視 察 項 目	子どもの居場所づくりについて、ふくふく子ども館（現地視察）
視 察 概 要	（1）子どもの居場所活動支援補助事業開始の経緯 下関市は、平成29年度に子どもの生活実態調査を実施。この調査では、困窮世帯において、子どもが一人で食事をとっている実態や、勉強を教えてもらえる場所が必要とされていることが明らかになった。この調査から、下関市は、全ての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく、夢や希望を持てる街の実現に向けて、子どもを地域及び行政の必要な支援につなげるため、子どもの健やかな成長を地域で支援し、地域全体で子どもを見守る環境を充実させる活動を行う団体又は個人に対し、活動に係る経費の一部を補助する事業を開始した。 （2）具体的取組 子どもを見守り、地域や行政の支援につながる子どもの居場所づくりの活動を行う団体又は個人に対し、活動に係る経費の一部を補助（補助上限額13万2,000円）する。 具体的には、子ども食堂や、学習支援、フードパントリー、体験等を提供する施設が該当する。 （3）事業の成果と課題 子どもの居場所活動支援補助事業は、令和4年度から開始している。当初は、子どもの居場所1カ所あたり総額24,000円相当の食材等を提供していたが、令和5年度からは補助金として柔軟に利用できるようにしたことで活用しやすくなったとの声がある。対象となり得る団体は市内39団体。今年度、7月現在では、15団体からの申請が来ている状況。 （4）今後の展望 事業を通して、地域で子どもの支援に関心を持つ人が増え、子育て支援の取組みが盛んになること、また行政主体では行き届かない子どもに対しての支援が行き届くようになることで、全ての子どもが自立した個人として健やかに成長でき、将来に渡って幸福に生活を送ることができる社会の実現を目指す。

	〔質疑応答〕 Q. 活動の概要は？ A. ○子ども食堂 地域的身近な場所で子どもに対する食事の提供を実施している。 また、親の育児ストレス軽減を考慮した活動している団体もある。 ほかに、地域の他世代の居場所として、高齢者と子どもが交流できる地域食堂を運営している団体もある。 ○学習支援 主に宿題を見る学習支援。計算ドリル、漢字ドリル等の自己学習を支援する活動団体もある。 ○フードパントリー 企業等の防災備蓄品で賞味期限が近くなった食材及びフードバンクから寄贈された食品を、子ども食堂の帰りに持ち帰ってもらう取組を行っている。 ○体験の提供 保護者に代わって家庭で体験できないような、キャンプ・バーベキュー等を提供する活動や、タケノコ掘り等の郷土愛や自己肯定感を育ませるための取組を行っている。 Q. 補助金の総額は？ A. 令和6年度は468万4,000円である。 子どもの居場所を運営している35団体に補助上限額まで交付できる予算を確保している。 ※補助上限額 13万2,000円 Q. 財源は全て一般財源か？ A. 令和6年度は、全額一般財源であり、ふるさと納税を充てている。 Q. これまでどのような団体に活用してきたか？ A. 民生児童委員、元PTA役員、住民有志、まちづくり協議会の子ども育成部会、ファミリーホーム運営団体のような任意団体のほか、医療法人やNPO法人等に活用してきている。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	下関市では、子育て支援施策 For Kids For Future を最重要施策として、所管部署を横断して様々な事業を展開している。 今回視察させていただいた、子どもの居場所活動支援補助金事業は、令和4年度に、子どもの居場所支援事業として始まったものであり、利

	用団体の意見を反映させながら、使用方法等を更新していることが伺えた。また、ホームページ上では、下関市内の子どもの居場所が一覧になっており、各団体がいつ・どこで・どのような活動をしているか等、市民が利用したいと考えたときに一目でわかる形となっており、必要な情報が必要な人に届くよう鶴岡市でも取り入れるべきと感じた。 現地視察を行ったふくふくこども館は、無料で利用できる屋内遊戯施設であり、館内には、遊び場だけでなく、貸室として利用できる多目的室、専任保育士がいるこども一時預かり室、子育てに関する相談ができる相談室も併設されており、子どもを地域社会で育てるという意識で運営していると感じた。
--	--

報告者 厚生常任委員会 中沢 深雪